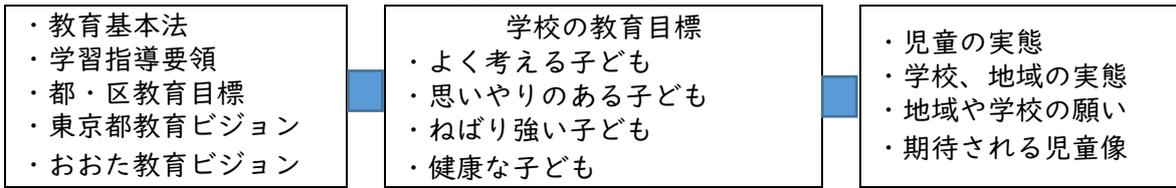


令和5年度授業改善推進プラン全体計画



学校経営計画（学力向上に係る重点「何を学ぶか」「どのように学ぶか」）	
○	学び方を学ぶ。
○	教科等の特性に応じた見方・考え方を学ぶ。
○	多様な他者と協働することを学ぶ。
○	学習したことを他の学習や生活で活用することを学ぶ。
○	「予習—授業—復習」サイクルで学ぶ。
○	「習得サイクル」で意味理解を深める（アウトプットしながら理解確認する、協働しながら理解深化する、学習を振り返り次の学習に生かす）。
○	「探究サイクル」で深く探究する。
○	他教科等との関連性や連続性に着目する。
○	豊かな地域資源から学ぶ。
○	イノベーションシートでのリフレクションを生かしながら学ぶ。

指導の重点	
各教科	学習の基盤となる資質・能力の育成と探究的な学習の充実を図る。 習得・活用・探究の学習過程で深い学びを目指す。
総合的な学習の時間	積極的に社会参画する行動力を高めることができるよう、各教科等での探究的な学習から主体的・協働的に学習を深められるようにする。
道徳教育	答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題と捉え、多面的・多角的に考えられるように、考え議論する道徳を実践する。
特別活動	互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、合意形成や意思決定することの必要性和自己の役割を理解し、実践できる力を育成する。
生活指導 進路指導	未来実現 PT や委員会活動と連携した学校のきまりの見直し等児童の主体的な活動を促進するとともに、教科等横断的に関連性・連続性をもってキャリア・パスポートを活用し、学習状況やキャリア形成を見返し振り返る態度を育む。

授業改善に向けた視点	
教育課程	○授業時数の確保と教材研究・準備のための時間を確保する。 ○15分のモジュール学習に充実を図り、効率的・効果的に学習を進める。 ○算数の習熟度別指導や少人数指導、補習教室を実施する。
学習指導	○「習得・探究サイクル」による単元構成を意識した学習計画により、一単位時間の学習過程を明確にする。 ○「予習-授業-復習」の学習サイクルにより家庭学習の定着を図る。 ○学習用タブレットの効果的な活用を図る。
評価活動	○学習のねらいと評価規準を明確にし、児童の学習改善、教師の授業改善につなげる。 ○各種学力状況調査の結果を児童・保護者と共有するとともに、授業改善に生かす。 ○教科の観点別評価内容について保護者会などを通じて学期ごとに説明する。
家庭地域連携	○コミュニティスクールとしての機能を充実させ、地域や保護者との連携を深める。 ○外部評価を次年度の教育課程編成に反映させる。 ○地域人材・資源との連携充実で地域学習の充実を図る。 ○道徳授業及び体育授業地区公開講座を実施し家庭地域連携を図る。
校内研究 研修	○「エージェンシーの発揮を促す基盤となるカリキュラムをデザインする～変換をもたらすコンピテンシーを教科等横断的に育成する～」を研究主題として校内研究を進める。 ○「OJTパッケージ」による、年間を通じた計画的な研修で、教科等専門性・授業力の向上を図る。

